

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームおおきな家 東館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsvnoCd=0175800291-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsvnoCd=0175800291-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は法人理念を共有し、ゆったりとその人らしく生活を送れるよう、また適切な支援ができるよう心がけている。  
個人の持っている能力を最大限生かせるようにも心がけている。また入居者様が毎日を楽しみ生活できるような雰囲気作りを心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームおおきな家」は、長沼町の自然豊かな住宅地に建っている2階建て2ユニットの事業所である。建物内は明るく開放感のある造りで、居間や食堂には観葉植物やお花、季節感のあるクリスマスツリーが飾られており家庭的な温もりが感じられる。清掃も行き届いた清潔感のある事業所である。新たに就任した管理者を中心に、全職員で利用者が自宅のように落ち着き、笑顔で楽しい日々を過ごせるように一人ひとりの思いに沿った温かなケアを行っている。感染症の流行により地域活動への参加や事業所行事での交流は難しかったが、近くの公園を散歩したり利用者と一緒に畑作りをしながら積極的に外気に触れて近隣の方々と挨拶を交わしている。また、知人や友人など馴染みの方々と交流も継続できるように感染に配慮した面会や電話の取り次ぎなどを支援している。年数回、人格の尊重やプライバシー確保に関する法人の接遇マナー研修を実施し、職員の資質向上を目指しながら優しい言葉かけで適切な対応を行っている。食事面では、利用者と一緒にホットケーキなどのおやつ作りをしたり、栄養バランスの取れた献立で、旬の食材を活かした彩りのよい食事を提供しており利用者の楽しみとなっている。新しい管理者は向上心を持って熱心に運営に取り組んでおり、今後の更なる成長が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」の理念を職員で唱和し実践するよう日々、努力しています。	法人共通の理念を事業所理念と捉え、事務所前の廊下に掲示している。申し送りで唱和することもあるが、理解を深める機会が少ないので会議などで改めて確認したいと考えている。常に理念を意識できるように玄関や居間など目につく場所への掲示も検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の「花いっぱい運動」や「清掃活動」に利用者様と積極的に一緒に参加し交流を深めていたが現在はコロナ対策のため地域との交流を控えている。	感染症流行前は、地域活動や外部の方による音楽療法で交流していた。今年度は近隣の公園に出かけて地域の方と挨拶したり、同法人事業所の利用者と一緒に畑仕事をして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会等に職員は参加して知識を深め地域や、また身近な方々に少しでも啓発するよう日々努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ご家族様や地域の方の意見交換を通して貴重な意見を頂き、サービス向上につなげられるよう努めています。	感染症流行前は、地域役員や家族も参加して高齢者虐待や感染症、パーキンソン病などのテーマで資料を用いて開催していたが、今年度は書面会議も行われていない。	感染症流行の中でも書面会議を開催し、事業所の活動状況や様子を議事録に記載し、テーマに沿った役立つ情報資料なども添付して全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、役場が主催するサービス調整会議に参加し町内の福祉関係者等との情報交換を行い協力関係を構築できるよう努力しています。	本部が中心になり役場と連絡を取っている。管理者は、役場から新型コロナウイルス感染症対策やインフルエンザ予防接種の情報提供を受けたり、生活保護受給者の医療券について相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアを日々実践しています。また、玄関、内ドアも施錠せず可能な限りオープンにしています。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備している。3か月ごとに法人合同で身体拘束適正化委員会を開催し、定期的に勉強会も実施している。新人研修を充実させ、勉強会の資料も分かりやすく整備する意向である。委員会で拘束につながりやすい事例なども取り上げて検討したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止についての研修会を通じ共通の理解と認識を深め、日々実践しています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」「成年後見制度」に関して学習するよう努めているが、それらを活用し支援に繋げた事例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様、ご家族様に十分に説明、丁寧に分かりやすく説明するよう心がけ、分からない納得できない部分は、懇切丁寧に何度でも説明するよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が気軽に、ご意見ご要望を言って頂けるように信頼関係を築く努力をしています。また、ご家族皆様が気軽に来訪して頂けるよう心がけています。(現在はコロナ対策のため玄関先で対応しています)	家族の来訪時や電話で利用者の様子を伝え、意見や要望があれば連絡ノートに個別に記載している。毎月個別便り「おおきな家」を発行し、写真やコメントで利用者の様子を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部は定期的に職員とのミーティングの機会を設け、意見や提案を聞く機会を設けています。	管理者を中心に毎日の申し送りや当日の出勤者で会議を行い、ケアや業務改善などに職員の意見や提案を活かしている。管理者は各職員と個別に話をしているが、今後は定期的な個別面談も考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部は個々の職員の能力や努力、実績や勤務状況等を把握し適材適所へ職員を配置するよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、研修等を無理のない範囲で開催しています。参加できなかった職員には、資料を配布し個々で学べるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため機会は少ないが長沼町で開催している地域の会議へ参加し、事例の検討等行い質の向上につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心して暮らしていただけるように困っていること不安に思っていることに親身になって耳を傾けながらより良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思われていることや困っていることに対して直ちに対応できるよう臨機応変に努め、信頼関係を築けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いや必要とされるニーズ確認しどのように支援を行うことができるかを検討し、より良いサービスを提供できるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様一人一人の人格個性を尊重し、家族的な雰囲気与生活を一緒にいとお互いに信頼し合える関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族様に、ご入居者様の心身の状態や生活状況について連絡を密にとり相談をする事でご入居者様とご家族様のさらなる絆を深めて頂けるよう、サポートを行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所は、ご家族様、ご親族様、ご友人様にいつでも来訪して頂きたいという姿勢を心がけている。今年度はコロナ禍で制限はあったが、暖かい季節は前庭で面会して頂いたり、お電話で通話して頂く等これまでの関係が途切れないような支援に努めています。	近所の方や昔からの知人が訪ねて来たり、友人と電話で話をする利用者もいる。職員は感染症対策に配慮しながら馴染みの関係が継続できるように支援している。職員と受診した帰りに自宅を見たり、立ち寄って必要なものを持ってくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者様一人ひとりの個性や生活習慣を把握し、孤立やトラブルが極力起きないように声掛けをし、ご利用者様同士がお互いに支え合え良好な関係を作れるようサポートしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所では、ご利用者様が入院をされた場合は、馴染みの関係が崩れないように職員が病院へ会いに行き状況を聞き相談支援をするよう努めているが、今年度はコロナ禍で実行できていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の思いや暮らしの希望にそえるようにご入居者様やご家族様から、これまでの生活環境やご入居様の情報を元に暮らし方の希望の把握に努めています。困難な場合は本人本位のケアを検討しています。	会話や表現、声のトーンなどから思いや意向を把握している。課題分析(アセスメント)概要シートを3か月ごとに更新しているが、趣味や嗜好、暮らしの習慣などの情報が少ない利用者が多い。	日々のケアの中で得られた趣味や嗜好、暮らしの習慣などの情報を、随時課題分析(アセスメント)概要シートに具体的に追記するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの生活歴や生活環境などの情報など、利用されているサービスの経過を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人のホームでの生活の中で、ご本人様の心身状況の変化や、出来る事、出来ない事を把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、看護職員、ご家族、ご入居者様も含め、ご本人様の心身状況、またご家族様のご要望等を聞き介護計画に反映させている。計画に沿った介護が実行されているかモニタリングを実施し検討している。	計画作成担当者が家族の意向や職員の意見、提案を聞き取り、基本情報シートと課題分析(アセスメント)概要シートを3か月ごとに更新して介護計画を作成している。介護計画を意識しながら、日々の介護経過記録を記入しているとはいえない。	介護計画の見直しに活かせるように、介護計画のサービス内容に沿って変化や課題を意識しながら介護経過記録に記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、ご利用者様の個別ファイルに、支援内容や一日の生活行動、会話内等を記録し職員間で情報を共有し日々のより良いケアの実践に繋げており、介護計画の見直しにも生かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況に応じて発生するニーズに合わせた柔軟なケアサービスが出来るように、有効な支援資源について職員間で情報交換し全職員が把握出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉サービスや医療機関を把握し今あるニーズに即対応できるよう努めている。今年度はコロナ禍で実行できなかったが、ご利用者様が町内会の行事に職員と参加し豊かな生活活動ができるよう支援して。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尊重し入居前からのかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援している。専門医の受診も行い適切な治療を受けて頂けるよう御家族とも相談し支援している。	かかりつけ医を継続して受診したり、往診を受けている利用者もいる。家族と受診する時は、利用者の状況に応じて書面や口頭で健康状態を伝えている。受診状況は、受診経過記録に個別に記入している。	

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤だが看護師が配置されており、いつでも変化に対応できる体制ある。介護職員はご利用者の健康状態の把握、心身の変化に気づくように努め、状況に応じて看護師へ報告、連絡、相談し適切な看護や受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際に安心して治療に専念できるように、そして早期退院にむけての情報交換や相談を病院関係者と頻回に行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は終末期や重症化した場合の在り方について、ご本人様やご家族様と早い段階から話し合い相談し、その中で希望があれば随時対応するよう努めている。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って、常時医療行為が必要になったり食事が摂れなくなった時は対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、医師の判断の下に希望に応じて看取りを行うこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や初期対応の訓練を受けてはいないが、一部職員は、個別に応急手当の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では、年2回ほど火災や地震を想定し避難訓練を実施している。避難経路の確認や実際の避難活動、消火訓練を実施し職員は避難方法を身につけているが全職員ではない。コロナ禍のため消防職員、近隣住民の参加は得られていない。	感染症流行前は、消防署と地域住民の協力を得て年2回避難訓練を実施し、今年度は昼夜の火災を想定した自主訓練を行っている。災害種別ごとのマニュアル整備と地震時の対応についての話し合いが不十分な面もみられる。救命講習の受講間隔も空いている。	災害種別ごとのマニュアルを整備するよう期待したい。また、地震時のケア別の個別対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。感染症の収束状況を見ながら、職員の救命講習の受講を計画的に進めるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳の保持、プライバシーに配慮したケアをするよう日々心がけている。	年2回、法人の接遇研修を受講し、利用者の尊厳や権利について基本を再確認している。日常のケアでは具体的に確認して理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定出来るよう意図的な声掛けをしたり、雰囲気作りを行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活リズムを尊重し、一人ひとりのペースを優先することで、自由にありのままに自分らしく過ごすことができるようご希望に沿って支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所では、ご利用者様のご希望に沿って、鏡の前で髪を整えて頂いたり、外出の際の洋服選び等、出来る限りその人らしい暮らしができるよう支援している。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を把握し、食べる力を考慮して食事を提供している。食材の下処理や準備を一緒に行うことがあるが食後の後片付けは職員のみとなっている。	法人作成の献立を基に、旬の食材や彩りなどバランス良く美味しい食事作りを工夫している。利用者は職員と一緒に食事の準備をしたり、おやつレクではホットケーキを焼き、力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の一人ひとりの食事習慣や食べる力の把握に努めている。また、ご利用者様一人ひとりの水分量や食事量のチェックを行い職員で共有しその入居者様に適した摂取量が確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の起床時、毎食後の口腔ケアを個々の状態に応じて声掛けや介助により支援している。義歯の方は就寝前に洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援している。ご自身で出来る事はして頂き、少しでも長く自立できるように支援しているが、オムツの使用頻度の減少までには繋がっていない。	排泄チェック表に記録し、さりげないトイレ誘導や身体機能に応じた身守り介助で全員が日中のトイレ排泄を維持している。体調を把握して夜間はポータブルトイレの使用やベッド上で本人に合った衛生用品を交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表を用いて排便パターンを把握し、便秘予防のため水分摂取、運動の声掛けをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際にご利用者様個々のご希望、体調の変化に応じて柔軟に入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合は、時間や日を改めるなどして週2回の入浴を支援している。体調不良時は全身清拭ですっきりして頂ける支援をしている。	利用者の入浴順や湯加減、同性介助の希望に沿って週2回の入浴を支援している。福祉用具を整えて入浴日や時間帯も柔軟に対応している。入浴剤を使用したり、職員と歌ったり楽しい会話をして気分転換できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様それぞれの体調や気分に合わせて休養して頂き、日中は体操やレクリエーションなどで体調を整え気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容書はスタッフ全員が把握できるように個別のファイルで保管し薬効、副作用について理解ができるようにしている。状態によっては主治医に相談し調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの生活歴や嗜好、力の把握に努め、ご本人の状態にあった力を発揮できるように支援している。ホーム内の飾り付けやぬり絵、お誕生会等で気分転換の支援をしている。		



グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様一人ひとりのご希望に沿うべく外出支援する準備はあるが今年度はコロナ禍のため実行できていない。それでも悪天候や冬季以外にご出来る限りホーム前庭において日光浴の支援をしている。また野菜畑があるのでその手入れや収穫には出かけている。	感染症流行で外出行事は自粛している。週に1回は車椅子の利用者も一緒に近隣を散歩し、地域の方と挨拶を交わしている。野菜畑で生育を喜び、公園や花壇をまわりながら季節感を楽しんでいる。事業所周辺の環境は良く、積極的に外気浴や日光浴に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ケアにおける金銭所持の良い影響を理解しており、ご希望のご利用者様には小銭を持って頂き、他は預かり金として事業所で管理しご本人様の要望により使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの要望があれば障がない限り、大切な人に電話をかけるお手伝いや手紙での交流ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が、ゆったりと居心地よく過ごせるような環境作り心掛けている。また快適に生活ができるよう室温や湿度などの配慮に努め、窓からは庭の草花やご近所、公園などが見え近隣の生活や季節を感じることができる。	共有空間は整頓され清潔感がある。リビングのソファや作業台にもなる食卓には、利用者が集まり居心地よい場所となっている。壁には季節感ある装飾が並び、観賞用の鉢には利用者が水をやり、季節や生活が感じられるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の独りの時間、または気の合った方とゆったり楽しめるようにその時々に応じて座席やスペースに配慮し、その場の雰囲気作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、ご利用者様やご家族様と相談の上で、慣れ親しんだ道具や、ご自宅で使用していた家具、思い出のお品やご家族の写真等を持ってきて頂き、安心して落ち着いた生活が心地よくできるよう支援している。	居室の入り口には利用者の写真が飾られ、室内には塗り絵などの作品や思い出の家族写真を飾っている。馴染みの筆筒や使い慣れた小物を置き、利用者が今までの習慣を継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ご利用者様が迷う事なく解りやすい空間配置となっている。自立した生活を長く過ごして頂けるよう家具の場所などスムーズに行動できる環境づくりに努めている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームおおきな家 西館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様一人ひとりの思いを大切に、ゆったりと自由にありのままに生活が送れるよう支援している。  
今年度はコロナ禍のため外出や行事、交流ができなかったが、自信を持って生活を続けていけるように、毎日の運動やレクリエーションを通じて張り合い、喜びを感じて頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者は「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」の理念を実践しご利用様がより良い生活を送れるよう支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、町内会に加入し「花いっぱい運動」や「清掃活動」に職員がご利用様と一緒に参加したり、今年度はコロナ禍で実行できなかったが夏祭りなどの行事にも近隣の方々をお誘いし交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、認知症についての共通の理解を持てるよう職員の研修会参加を促進し、またコロナ禍で実行はできていないが日々の実践での支援方法を如何に地域の人々に理解して頂けるかまた発信していけるか努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当事業所での取り組みについて報告し、ご家族様や地域の方の意見をお聞きし話し合いをもって今後のサービスに反映できるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は、市町村担当者と連携し協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者と事業所職員は身体拘束の具体的な行為について理解を深め、お互いに情報交換をし協力を仕合い身体拘束のないケアを目指している。またご利用様の安全に配慮しできるだけ行動を制限することがないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員や管理者は、研修会等に参加し、高齢者虐待防止法について理解を深めるよう努め、虐待のないケアを目指して実践している。ご利用様の心身の状態確認を常に行い全ての職員間で情報交換し見過ごすことがないように努めている。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員や管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修会等学ぶ機会があれば参加するよう努めている。現在まで活用した支援はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご本人様とご家族様の不明な疑問点がないか傾聴し、不安な事があれば分かりやすくご納得頂ける説明ができるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所において、ご家族様の来訪時やお問い合わせ時等に、ご利用者様の現状態をお伝えし、ご意見ご要望をいつでも遠慮なく訊くことができるよう努めている。お聞きしたご意見、ご要望を運営に反映できるよう常に検討しておりその事実過程や詳細をお伝えしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と毎日の申し送り及び業務の中で常に情報、意見の交換を行い日々のサービスに繋げている。また、代表者は職員の意見や提案をいつでも聞ける体制を設け気兼ねなく話せるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、事業所に来て管理者や職員個々との会話を通して個人の努力やその方向性、それぞれが持つ職場環境の問題点を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するよう努めている。また、研修資料などの配布を行い法人内での研修の機会を確保できるよう図っている。外部研修については、今年度コロナ禍ではあるが管理者研修を受ける機会の確保ができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍で実行できていないが、代表者は、職員及び管理者が地域の同業者及び同業他業種との合同研修会等でネットワークの機会を作り意見交換をしサービスの質の向上をさせていく取り組みができる準備がある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所では、ご本人様、ご家族様からこれまでの生活環境や情報をお聞きした上で、困っていることや不安なこと、抱えている問題、ご要望等を傾聴し安心してサービスを受けることができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所では、サービスの利用決定時及び開始時間開始後それぞれにおいて、ご家族様が不安に思う事、困っている事、ご要望ご不安を傾聴し問題点等を確認の上で、より良い信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所では、ご本人様、ご家族様の思いと現状をお聞きし今一番必要とされる支援を見極めるよう努めている。また他のサービス利用も可能であるか否かを常に検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様一人ひとりの人格個性を尊重し、一方的な介護にならぬよう家族的な雰囲気での生活を一緒に行いお互いに信頼し合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族様に、ご本人様の心身における変化やその状態、また生活状況について連絡を密にとり相談をすることでご本人様とご家族様のさらなる絆を深めて頂き、また、ご家族様と職員と一緒にご本人様を支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所は、ご家族様ご親族様、ご友人様にいつでも来訪して頂きたいという姿勢を心がけている。今年度はコロナ禍で制限はあったが人間関係を途切れさせないよう暖かい季節は前庭で面会して頂くいたり、ご希望の時間にお電話で通話して頂く等これまでの関係が途切れないような支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者様一人ひとりの個性や生活習慣を把握し、孤立やトラブルが極力起きない方向で声掛けをし、ご利用者様同士がお互いに支え合え良好な関係を作れるようサポートしている。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所では、ご利用者様が入院をされた場合は、馴染みの関係が崩れないように職員が病院へ会いに行き状況を聞き相談支援をするよう努めているが、今年度はコロナ禍で実行できず、ご家族様の相談と関係支援の断続を努めるに留まった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所は、ご利用者様の思いや意向をお聞きし、これまでの生活環境やご家族様からの情報を元に暮らし方の希望の把握に努めている。困難な場合においてはご本人様本位のケアを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所は、ご本人様やご家族様からの生活歴や生活環境などの情報や利用されているサービスの経過を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所は、ご利用者様一人ひとりの日々の過ごし方の中で、ご本人様の心身状況の変化や、出来る事、出来ない事を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、必要な関係者各位は、ご本人様の心身状況やその時々思い、またご家族様のご要望等を聞き話し合い介護計画に反映させている。計画に沿った介護が実行されているかモニタリングを実施し検討し、その意見を取り入れ再度計画書に反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、ご利用者様の個別ファイルに、支援内容や一日の生活行動、会話内等を記録し職員間で情報を共有し日々のより良いケアの実践に繋げている。それは、介護計画の見直しにも生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は、利用者様やご家族様の状況に応じて発生するニーズに合わせた柔軟なケアサービスが出来るように、有効な支援資源について職員間で情報交換しそれを情報提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所は、地域福祉サービスや医療機関を把握し今あるニーズに即対応できるよう努めている。今年度はコロナ禍で実行できなかったが、ご利用者様が町内会の行事に職員と参加し豊かな生活活動ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は、ご本人やご家族の希望を尊重し入居前からのかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援している。専門医の受診も行い適切な治療を受けて頂けるよう支援している。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、非常勤だが看護師が配置されておりいつでも変化に対応できる体制ある。介護職員はご利用者様の健康状態の把握、心身の変化に気づくように努め、状況に応じて看護師へ報告、連絡、相談し適切な看護や受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所は、ご利用者様が入院した際に安心して治療に専念できるよう、そして早期退院にむけての情報交換や相談を病院関係者と頻回に行うよう努めている。また、定期の受診時や訪問診療等で、情報共有し病院関係者といつでも協力できるような関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は終末期や重症化した場合の在り方について、ご本人様やご家族様と早い段階から話し合い相談し、その中で希望があれば対応するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年にわたるコロナ禍において、全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練を受けている状況ではない。職員個別には町内で主催する応急手当の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では、年2回ほど火災や地震を想定し避難訓練を実施している。避難経路の確認や実際の避難活動、消火訓練を実施し職員は避難方法を身につけているが全職員ではない。コロナ禍のため近隣住民の参加は得られていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの人格の尊重、尊厳の保持、プライバシーに配慮したケアをするよう日々心がけているが、気配りのない声かけや言葉使い、また配慮に欠けた対応があり職員間で注意をしながらケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定や思いを表出しやすいように意図的な声掛けをしたり、表情の観察から自己決定がしやすい促しができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ご利用者様それぞれの生活リズムを尊重し、一人ひとりのペースを優先することで、自由にありのままに自分らしく過ごすことができるようご希望に沿い支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所では、ご利用者様のご希望に沿い、鏡の前で髪を整えて頂いたり、お鬚剃りのケアをしたり、毎月のヘアカット、外出の際の洋服選び等、出来る限りその人らしい暮らしができるよう支援している。		



グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、ご利用者様の嗜好を把握し、食べる力を考慮して食事を提供している。よほどの体調不良がない限りご利用者様の全てがお食事を楽しみにしており全量召し上がっている。食材の下準備を一緒に行うことがあるが食後の後片付けは職員のみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所では、ご利用者様の一人ひとりの食事習慣や食べる力の把握に努めている。また、ご利用者様一人ひとりの水分量や食事量のチェックをファイリングしそれぞれ一日の適した摂取量が確保できるよう記載により職員間で情報共有し適切な支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の起床時、毎食後の口腔ケアを個々の状態に応じて声掛けや介助により支援している。義歯の方は就寝前に洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援している。ご自身で出来る事は頂きトイレ通所における一連の動作が定着し少しでも長く自立できるように支援しているが、オムツの使用頻度の減少までには繋がっていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表を用いて排便パターンを把握し、便秘予防のため水分摂取、運動の声掛けをしている。また職員間での情報共有により便秘の原因と便秘による悪い影響の理解に努めている。便秘になってしまった際は、主治医と相談し必要に応じて服薬しスムーズに排便ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所では入浴の際にご利用者様個々のご希望、体調の変化に応じて柔軟に入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合は、時間や日を改めるなどして週2回の入浴を支援している。体調不良時は全身清拭ですっきりして頂ける支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所は、ご利用者様それぞれの体調や気分に合わせて休養して頂き、日中は体操やレクリエーションなどで体調を整え気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容書はスタッフ全員が見ることができるように個別のファイルで保管し薬効、副作用について理解ができるようにしている。薬の変更があった場合は記録と申し送りを適格に行い、状態によっては主治医や薬剤師に相談し調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所は、ご利用者様一人ひとりの生活歴や嗜好、力の把握に努め、ご本人の状態にあった力を発揮できるように支援している。コロナ禍のため数々の季節行事等が中止や延期となったがホーム内の飾り付けやぬり絵、お誕生会等で気分転換の支援をしている。張り合いと役割についてはご利用者様一人ひとりのパワーバランス格差で提供できていない。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所は、ご利用者様一人ひとりのご希望に沿うべく外出支援する準備はあるが今年度はコロナ禍のため実行できていない。それでも悪天候や冬季以外はご出来る限りホーム前庭において日光浴の支援をしている。また野菜畑があるのでその手入れや収穫には出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ケアにおける金銭所持の良い影響を理解しており、ご希望のご利用者様には小銭を持って頂き、他は預かり金として事業所で管理しご本人様の要望により使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所は、ご利用者様からの要望があれば支障がない限り、大切な人に電話をかけるお手伝いや手紙での交流ができるように支援している。必要な場合は代筆をする準備がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、ご利用者様が、ゆったりと居心地よく過ごせるような環境作り、また安心安全な分かりやすい同線配置に努めている。快適に生活ができるような室温や湿度、採光などの配慮に努め、窓からは庭の草花やご近所、公園などが見え近隣の生活や季節を感じる事ができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は、ご利用者様の独りの時間、または気の合った方とゆったり楽しめるようにその時々に応じて座席やスペースに配慮し、その場の雰囲気作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、ご利用者様やご家族様と相談の上で、慣れ親しんだ道具や、ご自宅で使用していた家具、思い出のお品やご家族の写真等を持って頂き、安心して落ち着いた生活が心地よくできるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ご利用者様が迷う事なく解りやすい空間配置となっている。自立した生活を長く過ごして頂けるよう手摺の設置、家具の場所などスムーズに行動できる環境づくりに努めている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームおおきな家

作成日：令和 3年 12月 16日

市町村受理日：令和 3年 12月 22日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回ほど火災や地震を想定し避難訓練を実施しているが、災害種別ごとのマニュアル整備と地震時の対応についての話し合いが不十分である。救命講習の受講も空いている。	1)災害種別ごとのマニュアルの整備 2)地震時のケア別の個別対応について話し合い 3)職員の救命講習受講の計画	1)火災・地震・風水害・感染症ごとのマニュアル作成 2)地震時のケア別の避難と、災害規模が大きい時の対応について話し合う 3)コロナ禍での感染状況を考慮した救命講習の受講計画書の作成	1)3ヶ月 2)1ヶ月 3)6ヶ月～1年
2	23	会話や表現、声のトーンから入居者様の思いや意向を把握し3ヶ月ごとにアセスメント概要シートの更新をしているが、趣味や嗜好、暮らしの習慣に関する情報が少ない。	入居者様それぞれの日々のケアの中で得られた趣味や嗜好、暮らしの習慣などの情報を随時アセスメントし、概要シートに具体的に追記していく。	入居者様の思いや意向の把握を管理者だけでなく職員全体で観察し、趣味や嗜好、暮らしの習慣について情報共有しアセスメント概要シートへ追記していく。	3ヶ月～6ヶ月
3	4	コロナ禍の前は運営推進会議を積極的に実施していたが、今年度は書面による会議も行われていない。	1)コロナ禍でも書面会議は開催できるので事業所の活動状況やその様子を議事録に記載する。 2)テーマに沿った役立つ情報資料を添付し全家族様へ送付する。	1)事業所での活動状況について書面での運営推進会議を実施し議事録を作成する。 2)具体的なテーマを設定し役立つ情報としてまとめた資料を全ご家族様へ議事録とともに送付する。	1)3ヶ月 2)3ヶ月～6ヶ月
4	26	計画作成担当者は家族の意向や職員の意見、提案を聞き取り、基本情報シートと課題分析(アセスメント)概要シートを3ヶ月ごとに更新して介護計画を作成しているが、その介護計画を意識しながら日々の介護経過記録の記入ができていない。	職員全体で介護計画を理解し、介護計画に沿った介護経過記録を記入する。	職員ひとりひとりが介護計画を理解し取り組めるようにし、具体的に介護経過記録の記入ができるようにする。	1ヶ月～6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。